

平成30年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針

生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。

このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。

特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。

- (1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化
- (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成
- (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり

評価
A 十分達成できている(目標以上の成果が得られた)
B ほぼ達成できている(ほぼ目標どりの成果が得られた)
C 達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない)
D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)

昨年度の成果と課題

昨年度の成果(○)と課題(△)
 ○新学習指導要領や高大接続改革の方向性を踏まえ、社会に通じる人として必要な力の育成について「亀高改革会議」の中で学校改革の議論が深まった。
 ○新アセスメントテストの実施、総学「ジェネリックスキル」設置及び内容の検討、亀高Can-Doリストのブラッシュアップなど、カリキュラムマネジメントによる学校改革の方向性が定まった。
 ○生徒が主役となった学校説明会などを通じ、生徒の自主性・積極性が涵養された。
 ○△数理科学科における探究学習は深められた。普通科では次年度の総学で取り組む。
 ○病院小児棟壁画の制作などの社会貢献をはじめ、美術工芸専攻の活動は充実したものにできた。
 ○関係法の趣旨に基づき、人権教育の質向上、相談体制の充実を図った。
 ○将来を見据える姿勢の醸成のために、卒業生や大学関係者など外部の人材を活用することができた。
 △大学進学実績については、継続した躍進とならず、前々年以前のレベルとなった。
 △主体的・対話的な学びに向けての、組織的な授業改善にはさらなる努力が必要である。
 ○説明会などで中学生への身近な広報ができ、本校志願者数の維持・増加につながった。
 △ツイッターによる発信も頻繁に行ったが、HPの更新に課題を残した。
 ○特別活動、部活動、生徒会活動の充実など生徒の自主性の育成を図ることができた。
 △部活動の環境整備に改善の余地を残した。
 ○読書啓発活動の結果、図書館利用が増加した。
 ○トビタテ留学ジャパンや海外中期・短期留学への参加など、海外に目を向ける生徒が増えた。
 ○コンプライアンス意識、安心・安全の意識の向上を図ることができた。

本年度学校経営の重点

- (1) すべての学校生活の場で「生徒に身につけさせたい力」の涵養を図り、学校をあげて「社会に通じる人」の育成を目指す。
- (2) 新総学「ジェネリックスキルⅠ」の円滑な実施と内容の深化を図る。
- (3) 教育課程を総括し、次期学習指導要領や高大接続改革の趣旨を踏まえた教育課程の検討を行う。
- (4) 主体的・対話的で深い学びの研究をはじめ、組織的に授業の改善を行う。
- (5) 普通科・普通科美術・工芸専攻、数理科学科で学ぶ生徒の学力の充実に努める。
- (6) 部活動、特別活動などを通じ、学校生活に主体的に参加する姿勢を育成するとともに、活動を支援する環境の整備に努める。
- (7) 将来を見据えた進路意識にもとづき、自主的・自律的な進路選択ができるよう、組織的・系統的な指導を行う。
- (8) 広報に努め、本校の教育内容全般を周知し、本校教育活動への理解・支援につなげ、志願者を増加させる。
- (9) 障害者差別解消法や部落差別解消推進法などの趣旨に則り、人権尊重の視点を持ってあらゆる教育活動に取り組む。
- (10) 支援を必要とする生徒に対して、学校内における連携、外部機関等との連携により、必要な支援を組織的に行う。
- (11) 安心・安全かつ勉学への意欲を向上させる教育環境の整備を図る。
- (12) 国際社会で活躍する人材の育成を目指し、その基礎となる力を涵養する。
- (13) 教職員一人ひとりが、全体の奉仕者として高いコンプライアンス意識をもち、協働して教育課題に取り組み、本校教育に寄せる信頼を高める。
- (14) 学びの基盤となり、人生を豊かにする読書への積極的な姿勢を醸成する。また地域や社会に貢献する姿勢を育成する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	「社会に通じる人」育成を目指す学校改革の推進と魅力ある学校づくり	1 生徒に「身につけさせたい力」を意図した教育活動の展開		
		2 高大連携をはじめとする普通科における特色ある教育活動と学力の伸長		
		3 普通科美術・工芸専攻における教育活動の充実		
		4 数理科学科における探究学習の深化と普通科への波及		
		5 本校教育活動の広報と志願者の増加		
		6 卒業生、PTA、地域の方などの協力を得た取組の充実		
		7 コンプライアンス意識を基盤とし、連携と協力による教育課題への取組		
教育課程 学習指導	確かな教科学力とジェネリックスキルの育成	8 「学力の伸長」「家庭学習時間の増加」をめざした指導の充実		
		9 主体的・対話的で深い学びの研究と組織的・体系的な授業改善		
		10 新総学「ジェネリックスキルⅠ」の円滑な実施		
		11 学びの基盤となり人生を豊かにする読書への積極姿勢の醸成		
進路指導 キャリア教育 生徒指導 人権教育	将来を見据え、志をもって進路にチャレンジする生徒の育成	12 将来像を描くためのキャリア教育の充実		
		13 「Can-Doリスト」の積極的な活用による「社会に通じる人」の基礎力育成		
		14 組織的・計画的な進路指導の充実		
		15 主権者教育の充実		
	豊かな人間性をはぐくむ教育	16 自分の属するコミュニティに貢献する気持ちの醸成		
		17 学校生活の充実感を高める指導の充実		
		18 規範意識の基盤としての倫理観の醸成		
		19 特別活動・部活動のさらなる活性化による自主性の育成と成果の追究		
		20 情報モラルに関する指導の充実		
		21 いじめを許さない学校体制の構築と教職員の連携		
		22 教育的配慮を必要とする生徒への組織的な対応と指導内容の充実		
	安心・安全・健康的な環境	23 障害者差別解消法・部落差別解消推進法の趣旨に則った教育活動の推進		
		24 健康・安全意識の向上と施設・設備の管理・改善		
		25 美化意識の向上と清掃の徹底		
	グローバル人材の育成	26 学校生活に潤いを与え学習へのモチベーションを高める環境づくり		
		27 異文化交流、異文化理解の推進		
28 海外留学にチャレンジする生徒への支援				
研究指定等	府立高校特色化事業(サイエンスネットワーク京都)、高校生伝統文化事業(文化歴史推進校)			
学校関係者評価委員会による評価				
次年度に向けた改善の方向性				